

あびの文化

発行人 大洋
美崎大 孫子市
我孫子市 高野山
250-23
04(7182)
0861

平成三十年度総会終了

5月19日、午後4時から市民プラザホールにて平成三十年度の総会が開催された。総会は直前に行なわれた文化講演会に参加した会員がほぼ全員残り出席した。司会の開会宣言の後、伊藤一男副会長が議長に選出され議案の審議に入った。当日提示された議案と採決の結果は以下の通り。

第1号議案 平成29年度事業報告

- 一、総会、文化講演会（五月二十七日）
- 二、史跡文学散歩（六、九、十一、三月）
- 三、放談くらぶ（原則偶数月第1日曜午後2時）
- 四、文学の広場掲示板への短歌6首掲示（年3回、1ヶ月間）

- 五、「美しい手賀沼を愛する市民連合会」への参加
- 六、文化活動関係団体との連携協力
- 七、プロジェクト活動への全員参加を進める
- 八、ホームページの充実
- 九、杉山英先生の業績を多くの市民にPR
- 十、白樺派についての継続的研究・勉強
- 十一、会報「あびの文化」の発行回数を年6回にその他の実績

○一月七日、臨時総会で「嘉納治五郎銅像建立」を採決、承認

- 「生涯学習出前講座」を6講座とした
 - 十一月七日、船橋市ガイド団体「ふなばし街歩きネットワーク」からの要請に応え市内ガイド実施
 - 記念樹ツバキ（ハクオトメ）に樹名板を設置
 - 我孫子市が推進する「桜プロジェクト」に参加
- 以上につき美崎大洋会長から逐次報告がなされその後、採決の結果、提案通り可決承認された。

第2号議案 平成29年度決算及び監査報告

決算の内容について稲葉義行会計幹事から説明があり、その後牧田宏基監査役から「適正に処理されている」との監査報告があった。その後採決の結果、原案通り可決承認された。

第3号議案 役員選任（案）

- （相談役） 藤井 吉彌（会長） 美崎 大洋
- （副会長） 伊藤 一男、越岡 禮子、村上 智雅
- 子
- （幹事） 戸田 七支、斉藤 清一、佐々木 侑
- 佐藤 やす子
- （会計幹事） 稲葉 義行
- （監査） 飯高 美和子、芦崎 敬己（幹事から転任）
- 牧田 宏基（退任）

採決の結果、提案通り可決承認された。

第4号議案 平成30年度事業計画（案）

- 一、嘉納治五郎銅像建立プロジェクトの推進
- 二、「四十周年記念誌」作成の企画と推進
- 三、総会、文化講演会（五月十九日）
- 四、史跡文学散歩（六、九、十一、三月予定）
- 五、放談くらぶ（原則偶数月第1日曜午後2時）
- 六、文学の広場掲示板への短歌6首掲示（年3回、1ヶ月間）
- 七、「美しい手賀沼を愛する市民連合会」への参加
- 八、文化活動関係団体との連携協力
- 九、プロジェクト活動への全員参加を進める
- 十、白樺派についての継続的研究・勉強
- 十一、我孫子市生涯学習出前講座への講師派遣

以上の事業計画（案）について美崎会長から示され、その後、採決の結果、提案通り可決承認された。

第5号議案 平成30年度 予算（案）

稲葉会計幹事から説明があり、原案通り可決承認された。（第2号議案、第5号議案については別紙参照）

第三十八回記念文化講演会を開催

五月十九日（土）午後2時から市民プラザホールにて第三十八回記念文化講演会が開催された。

今年の文化講演会は、今年初めより立ち上げた「嘉納治五郎銅像建立プロジェクト」をPR、サポートするため、かつ我孫子市と嘉納治五郎の関係を広く我孫子市民に知って貰うことを目的として企画されたもので、現在、日本で嘉納治五郎研究の第一人者とされる筑波大学真田久教授を招聘し、講演をお願いした。

会場は定員150人というものであったが、当初の予想人数にほぼ合致する約100名の参加者を得ることができた。

冒頭、主催者側（我孫子市教育委員会と共催）を代表して青木章我孫子市副市長、（写真）美崎大洋会長が挨拶。

演題は「嘉納治五郎とオリンピックムーブメント―多様性を重視した国際人―」（講演内容については2頁を参照）

市と共同で「嘉納治五郎展」開催

我孫子の文化都市の礎 嘉納治五郎を知ろう

五月十九日（土）から二十二日（火）まで、市民プラザギャラリーで「我孫子と嘉納治五郎展」を開催した。内容は、教育委員会文化・スポーツ課が嘉納治五郎の我孫子での活動のパネルや我孫子に現存する治五郎の書（書軸）5点などを展示した。

当会の展示エリアに募金箱を設置し来場者からの寄付金を募った結果4日間で92,100円の募金が集まった。



第三十八回記念文化講演会報告

稲葉 善行

平成三十年五月十九日市民プラザホールにて、我孫子市教育委員会と我孫子の文化を守る会共催により「嘉納治五郎とオリンピックピクムーブメント ―多様性を重視した国際人―」と題し、筑波大学教授 真田 久氏の講演会を行いました。

当日は、講演に先立ち、我孫子市青木副市長より「嘉納治五郎氏は明治四十四年（一九一一年）我孫子に別荘を構えたことにより、甥の柳宗悦等多くの文化人が我孫子に居住し、白樺派文化村の礎を形成したのは嘉納先生の多大な功績であります。」との挨拶があり、続いて、我孫子の文化を守る会的美崎会長より「当会では、我孫子の文化発展の基礎を作った嘉納先生の銅像を建立する計画を進めているところであり、皆様のご協力を頂きたい。」との挨拶の後、真田講師の講演に入りました。

講演の概要は

「嘉納治五郎は一八六〇年（万延元年）神戸に生まれ、一八八二年（明治十五年）講道館柔道を創始し、一八九三年（明治二十六年）東京高等師範学校長に就任、また、講道館に女性門下生を入門させ、柔道が女性の心身にどの様な効果があるか検証をするため、型を中心に指導を行いました。

一九〇八年（明治四十一年）には、東京高等師範附属小学校に特別学級を設置し、知育重視から体育・徳育重視に転換し、障害があっても社会の中で自立できる人間形成のための教育を実施しました。

一九〇九年（明治四十二年）アジア人で初めてのIOC委員となり、また、一九一一年（明治四十四年）には大日本体育協会を設立、国民の体育として年齢、性別、経済等にかかわらず、誰にでもできる運動（徒歩、水泳、長距離走等）を奨励し、道徳的品性の向上、働ける社会人の育成に努めました。

同年には、我孫子を訪れ、別荘を持ちました。その後、しばしば我孫子の別荘を訪れて、地域の人達と懇

談をしたり、講演会を行っていますが、それは、嘉納先生は国際的に活躍されている最中、我孫子へは施策を練るために来ていたのではないかと思います。

嘉納先生の国際人としての功績は、一九二二年（大正十一年）日本の為政者、世界の大使が参加した講道館文化会において、「世界全般に亘

っては人種的偏見を去り、文化の向上に努め、人類の共栄を図ること」など、人種的偏見の撤廃を宣言した。また、「近代オリンピックピクは全世界の人々が参加できるように始められた。世界の文化にするのであれば、欧米にとどまらずアジアでも行うべきである。」とオリンピックムとと武士道精神、すなわち精力善用（心身の力を最も有効に活用する）・自他共栄（他者に尽くすこと）で、自身も社会も反映する）の考えを統合、オリンピックムーブメントの多様性を主張し、一九三六年（昭和十一年）に一九四〇年（昭和十五年）開催の東京大会招致に成功しました（その後、戦争の激化により返上する）。

先生は、その他、世界の多方面にわたる人々に影響を与えています。国内においては、日本人初のオリンピック選手で箱根駅伝の創設者の金栗四三、国際連盟事務次長の杉村陽太郎、ノーベル化学賞の野依博士、その他政治家・軍人等、世界的には、アメリカ合衆国第三十二代大統領ルーズベルト、中国では魯迅、高等師範に学び中華民国の文部大臣となった范源廉、インドの詩人・思想家タゴール、一九六四年（昭和三十九年）東京大会金メダルのヘーシンク（オランダ）等嘉納先生の指導、影響を受けた著名人が大勢国際社会

で活躍しています。先生は、一九三八年（昭和十三年）カイロでのIOC総会の帰路洋上で逝去されました。最後に、T・バツハIOC会長は「嘉納氏は、IOC創設者クーベルタン同様、スポーツを教育に欠かせないものとして実践された教育者である」と称賛しています。」



で活躍しています。

先生は、一九三八年（昭和十三年）カイロでのIOC総会の帰路洋上で逝去されました。

最後に、T・バツハIOC会長は「嘉納氏は、IOC創設者クーベルタン同様、スポーツを教育に欠かせないものとして実践された教育者である」と称賛しています。」

私は、嘉納治五郎は講道館柔道の創始者及び戦前にオリンピック東京大会を招致した人であることは知っていました。この講演会で、これ程、体育教育を通して世界的に称賛されている方であると、新たに認識したところであります。

◆振込口座名 嘉納治五郎銅像建立基金

- 郵便局 □座記号番号 00290 | 6 | 139276
- 京葉銀行我孫子店、普通預金、□座番号 3255211
- 千葉銀行我孫子支店、普通預金、□座番号 3830922
- 千葉興業銀行我孫子支店、普通預金 □座番号 1129816

定期総会出席雑感

～二〇二〇年以降の会の活動を期待して～

芦崎 敬己

去る五月十九日、我孫子市教育委員会と共催による第三十八回記念文化講演会が開かれ、つくば大学教授・真田久氏の「嘉納治五郎とオリンピックピクムーブメント―多様性を重視した国際人―」と題した講演を拝聴しました。

講演会終了後、引き続き平成三十年度我孫子の文化を守る会総会が開かれました。

一年後の二〇二〇年に向けて嘉納治五郎の銅像建立を不転の決意で完遂したいとの美崎会長の力強い挨拶で総会の幕が上がり、ピンと張り詰めたものを感じました。

二〇二〇年は、「平成」の年号も新たな年号となって

いるだろうが、当会も銅像建立の大きな仕事を終え、会の新たなステージに入っていくかなければならないのではないかと、私は開催の時から強く感じました。

総会の議事は、平成二十九年事業報告、決算・監査報告、役員選任、平成三十年事業計画・予算が提案され、全ての議案が原案通りで了承、承認されました。私も、前期以来幹事として就任していましたが、今期から監査を担当することになりました。従来の解積では、監査は、会計監査として会の会計を中心に正しく使われているか、適正な財務執行についての点検を行うことが任務でしたが、昨今は点検範疇を会計に留まらずに、業務全般の執行に対しても点検することになって来ています。会則など基本規程上の詳細な役員の職務を把握していませんが、規程確認の上で業務全般の点検にまで適正な執行を見守る覚悟を持ちました。

そもそも私が我孫子の文化を守る会の存在を知ったのは、平成六年に我孫子市に越して二〜三年後のことだったと思います。市役所手前にある名戸ヶ谷あびこ病院の前身の市民ホールの一室で、今回同様に講演会と総会を開催しているのを見学し、テーマは覚えていませんが講演の面白さと総会での活発な議論、市民の熱心さに目を見張りました。「へえーっ、凄い集団だな」とワクワクし、定年になったら必ず門を叩こうとその決心に決めました。以来二十数年仕事を中心で平成二十六年に退職、一昨年に入会したという経緯です。

最近の会の会員数は一〇〇名前後で推移しているようで、総会に現にお顔を出された方は三分の一位だったかと思います。しかし、二十数年前の喧々囂々として議論するあの活発な印象は、残念ながらありませんでした。まさに大人しくなったのでしょうか。

今年度と来年度は、今年の一月の臨時総会で決議した嘉納治五郎銅像建立と、設立四十周年という大きなミッションと節目があり、会員が一丸となって邁進する目標がありますが、そのあとの会の推進力となる『も』はどのようなように考えて行ったらいいのでしょうか。

昨年の十一月に県内東葛地区の「観光ボランティア

ガイド連絡協議会」に出席して、参加三十八の大方の団体が構成員たる会員の不足、会員の高齢化を訴えていて、共通の課題として捉えられました。

当会も一〇〇名の大所帯ではありますが、今後の会の運営に課題となつていますが、未だ解決すべき課題として俎上に上つていないのではないかと思います。多少古くなった言葉ですが、二〇〇七年問題というのがありました。戦後の大きなベビーブームとなった昭和二十二年から二十四年生まれの団塊の世代と呼ばれる方々が、満六十歳を迎え始める年でした。大挙してやってくる元気なシニア世代に社会のあらゆる受け皿づくりが間に合つてなくて、大きな社会問題となりました。雇用延長や六十五歳定年制を導入する企業などが出て、何とか凌いで来ましたが、現在は、それから十一年が経過して間もなく団塊の世代は七十五歳、国でいう後期高齢者になる時期となりました。

戦後の日本社会の構造を作り上げて来た団塊の世代には、積極的に活力ある人々がいると思いますし、まだまだ寝たきりにさせない意味でも社会参加を呼び掛けませんか。

そして、現在現役で働いている若い世代の方にも、生活の余裕をもった働き方として地域での様々な活動に目を向けて貰い、充実した地元暮らしを謳歌して貰うように、当会への参加をもっともと呼び掛けましょう。

こんなことを感じた総会でした。

次回以降、我孫子の文化を守る会の更なる活性化の為に投稿したいと思えます。

嘉納治五郎の「書額」

美崎 大洋

我孫子市教育委員会と共同で市民プラザで開催した「嘉納治五郎展」(五月十九日〜二十二日)は開催前日にNHKから取材があり、期間中に数度ニュースで放映されたこともあってか、嘉納治五郎ファン、柔道経験者などを中心に市民が多数、見に来られ盛況のうち

に終了した。この展示の目玉は我孫子に現存する治五郎真筆による書額五点(面)といえる。市内の狭い範囲とはいえ通常、点在、分散している貴重な五点が一堂に会する機会はまだないこともあって、この書額の文字や書体を比較しながら眺めることができたことは貴重な経験といえる。

治五郎は書家としても一流を究められた人で、雄渾闊達な書風に揮毫の依頼はひきもきらずあつたとみえ、その書額は今も全国に多く残されている。どんな書額があるかについては、横山健堂氏の書『嘉納先生伝』昭和十六年四月刊)の中に「全国の道場や学校に掲げられている句を塩谷君が克明に調査したものである」として、次のとおり示されている。

「順道制勝」(八十一件)

「精力善用」(六十六件)

「力必達(ツトムレバ必ズ達ス)」(二十一件)

「心身自在」(十二件)

「盡力」(十一件)

「成己益世(己ヲ世ノ益ト為ス)」(八件)

「自他共栄」(五件)

「竭己殫成(己ヲツクシテ成ルヲ待ツ)」(五件)

「精力善用活用」(五件)

(その他、一件のものが六種で合計二百一十六件)

今回、「嘉納治五郎展」で掲示されたものは「力必達」「以人為鏡」「擇道竭力」「從善如流(善ニ從フコト

流ルルガ如シ)」「三樹莊」の五面であり、「力必達」を除いてあとは全て一点ものである。この五点の

書額の市内での所在は以下のとおりである。

「力必達」第一小学校

「以人為鏡」第一小学校

「擇道竭力」我孫子市役所市長室

「從善如流」角松旅館

「三樹莊」村山氏(個人)宅

ところで私はこの展示会が開催されるほんの少し前知人を案内してこれらの治五郎の書を見て廻った。

まず第一小学校であるが、事前に電話で訪問目的を述べて訪問した。玄関の正面の壁に架かった「以人為



を迎えてくれた。「人ヲ以テ鏡ト為ス」と読む。この語句は中国の古典から引用したもの。当日は校長先生が不在ということであったが、副校長先生が丁寧な対応をしてくれた。校長室に案内されると入口の上の壁に「力必達」の書額が架かっていた。大きな額で圧倒されるような筆致の大きな文字で書かれている。「力(ツトム)レバ必ズ達ス」と読む。治五郎の造語と思われ、語感から柔道場に架けられた場合が多いと聞く。

第一小学校を辞して天神山緑地向う。車を停めていると偶然、緑地の向かいにある村山氏のお宅から女性が出て来たので「お宅の「三樹荘」の書額を見せて頂けないでしょうか？」と図々しくお願いしたら「事前に予約をいただかない」と言いながらも玄関に案内してくれた。玄関に足を踏み入れると正面の階段に沿った壁に「三樹荘」の書額が架かっていました。「三樹荘」

とは柳宗悦の旧邸のことで、邸内に椎(スダジイ)の古木が三本屹立しているところから治五郎が命名して、書額に仕立てたものと聞く。この書額は、村山氏が前の持ち主である柳宗悦の長姉谷口直枝子(すえこ)の子息から三樹荘を購入したとき、古家の玄関に架かっていたもので、柳の新婚転居を祝して、治五郎が揮毫したものだと説明されたという。

次に我孫子市役所に向かう。市長室の「擇道竭力」は以前、何かの序でに見たことはあるが、見学だけの目的で行ったことはなかった。事前に了解もとっていなかったが、訪問の目的を秘書室に話すと市長室に案内してくれて書額を拝むことができた。「道ヲ擇(エラ)ビテカヲ竭(ツク)ス」と読む。治五郎の造語のようだ。



結局、この日は我孫子にある五面の書額のうち四面まで間近に見ることができたが、唯一見ることができなかったが、唯一見ることができなかった角松旅館の「從善如流」(善ニ從フコト流ルルガ如シ)を今回の展示会で見ることができたわけである。

展示会に来られた方、かつて柔道をやっていたという方が必ず言われたのは「精力善用」と「自他共栄」という言葉だ。なかにはこの言葉を「我が家の家訓として」と言われたご夫婦もいらした。

「精力善用」・・・「精力」とは心(精神)と体(体力)のこと。「善用」は良い目的のために使うこと。つまり「精力善用」とは柔道で鍛えた心と体を良いことに使いましうということ。

「自他共栄」・・・自分だけでなく他の人と助け合いながら良い社会をつくっていかう、柔道を通して世の中を良い方向に導こうという理想を述べている。

治五郎は柔道の道を究め強くなり、地位や名誉を得たあとも、決して驕ることなく、学問においても柔道においても人より研鑽を積み、常に向上心を持ち続け、更なる目標を作り自らが世の中の役に立つことを常に考えた。「精力善用」「自他共栄」の精神は世界の平和に繋がるという信念にまで高められたと言える。治五郎は好んでこの二つの言葉を書いたのだろう。前に挙げた全国の書のなかでもこの二つは数多く残っていることが分る。



第130回史跡文学散歩報告

「市内に残る嘉納先生ゆかりの地を訪ねる」

越岡 禮子

六月十七日、当会が中心になって進められている「我孫子の大事な人」・嘉納治五郎銅像建立運動の手始めになる散歩を実施した。今年度の史跡散歩は都内を含む先生ゆかりの地を訪ねる予定である。

当日九時、我孫子における先生の功績を紹介したあと参加者十九名で出発。なにぶん嘉納先生について不勉強な講師(筆者)なので、途中お詫びの気持を込め

て道筋にある史跡も案内した。
旧水戸道中沿いの八坂神社は応永年間に我孫子宿内の安全を願って京都八坂神社から勧請された。祭神は牛頭天王、伊勢參詣記念の灯籠台や関東大震災直後にここで朝鮮人三名の虐殺事件があったことを話す。

次に訪れた興陽寺では開基の旗本一八〇〇石の山高家を紹介。本陣墓地や下山事件で死後轢断判定を下した秋谷七郎博士の菩提寺であったこと、俳人石田波郷ゆかりの寺であることも話す。興陽寺に隣接してかつて二万坪



の嘉納後楽農園があった。現在その場所に解説板がある。農場開設前から解散に至るまでの経過や地元との係わり、実績などを紹介、また学園構想の燻りなども・・・。

手賀沼を眼下に臨む柏木の台地（現・白山一丁目）では大桜のもと、寺山修司の妻・九条映子の実家があった。寺山が愛妻を詠んだクロッカスの歌や手賀沼と

思われる湖を詠んだ二首を紹介する。
台地の先に国語学者上田万年別荘地があった。嘉納の娘婿の綿貫哲雄の勧めで購入した。その土地の顛末は上田の娘、円地文子がこの別荘地をモデルにして小説『土地の行方』を書いている。アビスタ内の図書館で見ることができる。この別荘地に接して昭和五年から約二年間、岡田嘉子が興した大衆キネマ撮影所があったが、現在は数軒の新しい家が建つ。

我孫子文士村の原点といわれる嘉納別荘「臨湖閣」は明治四十四年に土地購入、大正三年頃の建築と推定されているが、その全貌は不明。今も対岸の沼南の森や手賀沼が望める。当時の建物は無いが先生は休養は

勿論のこと、この別荘や我孫子に愛着を持ち、隣の三樹荘に甥の柳宗悦を呼んだ。さらに柳が白樺派と呼ばれる志賀直哉たちを招き、彼らの友人なども来訪して我孫子文士村と呼ばれることになった。

近年の嘉納治五郎研究では杉村楚人冠等と手賀沼保勝会をおこし、我孫子の将来について語り合うこともあったという。我孫子第一小学校を来訪したり、我孫子ゴルフ倶楽部設立にも助言があったと聞く。柔道家教育家、国際五輪（IOC）委員として活躍したことは多くの人が知るところだが、改めて地元我孫子と深い繋がりがあったことを、今回、史跡散歩に参加して貰った皆様に知っていただきたい。

当日は、寿二丁目にある嘉納先生の弟子であった村川堅固の旧別荘で解散した。

我孫子の巨木・名木を訪ねる会

樹木観察会報告第16回

【場所・船橋市薬円台周辺】実施日・五月十八日（金）

佐々木 侑

五月がこんなにも暑いとは、未だかつて経験したことが無いとも感じられるなにしる暑い一日であった十八日（金）、巨木の会のメンバー八名が船橋市薬円台周辺の巨樹観察を実施した。

この日の行程・新京成薬円台駅↓俱利伽羅不動尊↓正伯公園↓薬円台公園↓三山二宮神社↓正法寺↓田喜野井公園↓御嶽神社↓道入庵↓前原駅↓帰路（行程時間・3時間30分、移動歩数約15,000歩、調査樹木二十本）

＊薬円台の地名由来
江戸時代中期、八代将軍吉宗は駒場野薬園・小石川薬園に次いで下総薬園の開発を享保七年（1722）に丹羽正伯紀州藩医等に命じた。その後、薬園は廃止されたが「薬円台新田」と云われた。明治以降、陸軍騎兵学校となり、終戦時は進駐軍のキャンプを経て陸上自衛隊駐屯地となる。
＊俱利伽羅不動尊

くりから龍王は不動明王の化身。不動明王の剣（宝剣）に龍が巻付き宝剣を呑み込む姿である。石像の俱利伽羅不動は県内最古級である。△エノキ▽
・俱利伽羅不動尊のエノキ（左上写真）
（下は二宮神社御神木のイチヨウ）



＊薬園台新田（薬円台駅）正伯公園（薬円台公園）△クスノキ、ケヤキ、ソメイヨシノ

＊二宮神社
二宮神社は、船橋市三山にある神社。旧社格は郷社。下総の国二の宮（一の宮は香取神宮）。「三山明神」「二宮明神」とも言う。

社殿は永年間で彫刻は精緻である。船橋市有形文化財。
（右写真は世法寺のイチヨウ）



（右写真は世法寺のイチヨウ）

社伝では、弘仁年間(810-823)、嵯峨天皇の勅命により創建されたという。祭神は建速須佐之男(たけはやすさのおのみこと)を主祭神、櫛稲田比売命、大國主命、藤原時平命を祀る。≪イチヨウ、クスノキ、ケヤキ、モッコク、ヤブニッケイ、スダジイ、タブノキ、ボダイジュ≫・御神木のイチヨウ

*正法寺
真言宗豊山派。伝承では弘治二年

(1565)の創立。船橋市内で最初の十

九夜塔(延宝五年

1165)及び明暦三年(1657)の碑石

がある。≪イチヨウ

*田喜野井公園 ≪イヌザクラ≫

*御嶽神社
≪・正法寺のイチヨウ

前原地区の鎮守。祭神は木造蔵王

権現三尊立像(非公開)。

≪イチヨウ、クスノキ、スダジイ、三葉

マツ≫
・御嶽神社のスダジイ

イ(石写真)

*道入庵

前原新田では寺院を立てずに出身地の寺院を菩提寺とした。この道入庵は

北西にある墓地のお堂である。≪イチヨウ・導入庵のイチヨウ(左写真)



我孫子の巨木・名木を訪ねる会

樹木観察会報告第17回

【場所・土浦、亀城公園周辺】実施日：六月十五日(金)

佐々木 侑

梅雨の時期真っ最中の六月十五日(金)、やはり天気予報通りに時折滴り落ちる雨の中にも関わらず、巨木愛好家7名により城下町土浦藩の巨樹巨木観察会を行った。

当日の行程：土浦駅↓(バス)土浦一高前↓真鍋八坂神社↓真鍋小学校↓旧制土浦中学↓(バス)亀城公園↓亀城公園&土浦市立博物館↓(バス)常福寺↓下高津愛宕神社↓(バス)桜橋↓旧水戸街道(中城通り)まちかど館↓日本蕎麦「吾妻庵」↓霞月楼↓土浦駅↓我孫子

*真鍋八坂神社
創建は不明、牛頭天王社として現地に祀られたのは応永年間(西暦1394-1427年)
祭神は建速(たけはや)

素戔嗚命(牛頭天王)。鎌倉時代より祀られていると伝わり、江戸期には小田家・土屋家の帰依を受け土浦城の鎮守とされた。

参道入口：市指定
「八坂神社のムクノキ」。樹高19M、幹

周3.50M
参道入口：市指定

「八坂神社のケヤキ(下写真)」。樹高

28M、幹周6.00M

参道途中：市指定
「八坂神社のケヤキ

」。樹高28M、幹周5.45M 拝殿前：市指定



「八坂神社御神木のケヤキ(右下写真)」。樹高

29M、幹周6.07M

*真鍋(真鍋小学校)のサクラ(左下写真)

樹齢：約百十年 樹高：11M 幹周：5.2M

県指定天然記念物。明治四十年に移築した

折り校庭の南端に記念植樹されたもの。桜の

開花時期には美しい花を咲かせ桜の名所として知られている。

*土浦城
土浦城は江戸時代に城郭として整備され、中期以降に譜代大名の土

屋氏が城主となった。土浦藩領は9万5千石

常陸国では水戸藩に次いで領地。二重の堀

で守る平城で、天守は作られなかった。太鼓

櫓門が現存し、東西二か所の櫓が復元されて

いる。亀城の異名を持つ。茨城県指定史跡第一号。

亀城公園のスダシイ：樹齢：推定約五百年

樹高：16M 幹周：7.2M 県指定天然記念物。

*常福寺のイチヨウ

真言宗常福寺は東光山医王院と号す。本尊の薬師如来

坐像(国指定重要文化財)は平安時代の作。樹齢：推定約四百年 樹高：36M 幹周：5.71M 市指定



天然記念物。

(亀城公園のスタシイ)



(常福寺のイチヨウ)



懐かしの北京の想い出(とらぶ)

伊藤 一男

本表題で、これまで日本人と中国人の、主としてパ
ーソナリティに基づく違いを述べて 来ましたが、ちよ
つと視点を変え、二十年前の北京時代に感じたビジネ
スに関する想い出を以下に記します。

①店員の接客態度にうんざり

二十年前の中国は市場経済への移行を未だ模索中の
状況にあり、銀行や百貨店における接客態度は日本と
は雲泥の差がありました。何しろ百貨店の店員は品物
をお客さんに「買っていただく」のではなく、「売って
やる」であるし、銀行員は会計業務を「やってやる」
の態度でした。

百貨店で商品を買う場合、店員にこれを欲しいと陳
列棚の品物を指差すと、まず伝票をくれます。それを
持ってキャッシャーのところへ行ってお金を支払い、
領収書をもってそれを店員に差し出します。その間、
仲間の店員とベチャクチャ駄弁っていた担当店員は商
品を粗末な紙袋へ入れ、ニコリともせず無造作に手渡

してくれず(お礼を言うわけでもなく、おじぎをす
るわけでもなく)。店員はその場にじっと待っている間
に、お客が右往左往する仕組みなのです。

銀行の窓口業務の女性行員の接客態度にもあきれ返
りました。私が使っていた銀行は窓口が五つほどの小
さな支店で、いつも混雑していました。ある時こんな
ことがありました。女子行員の休憩室が完備されてい
ないのか、非番の行員は窓口を閉じただけでその場で
休憩していました。ガラス越しにその姿はまる見え
なのです。非番の彼女はやがて両腕を高く挙げて大あ
くびをしたかと思うと、その場にうつ伏せになって眠
ってしまいました。何分か経ってから、やがて目を覚
まして先ほどと同じようなあくびをし、不機嫌な表情
のまま窓口を開き、「次の方!」と客を迎えるのです。

1998年、北京での日中技術協力プロジェクトの
任務を終えて三年ぶりに故国日本の成田空港に降り立
ちました。北京首都空港に比べて成田空港のターミナ
ルビルは何ときれいなことでしょうか。入国管理審査
や税関の窓口では「どうぞ」とか「すみません」「お疲
れさま」といった北京ではめったに聞けない言葉が心
地よい響きで耳に入ってくる。両替のため銀行に入
れば、行員がやさしく対応してくれてサービスも満点
です。ターミナルビルの外へ出ました。思わず深呼吸
したくなるような柔らかい空気、甘露のようなうまい
水。ああ、さすがが故国日本!

②何でもありの中国

北京市の北西の郊外には一般に開放された有料の射
撃場がありました。ピストルからロケットランチャー
まで撃つことができ、ちよつとしたランボー気分が味
わえました。この射撃場の経営は実は人民解放軍であ
る、と聞いて驚きました。我が国でいえば、神聖な自
衛隊がサイドビジネスで射撃場を設けるということが
許されるでしょうか。面白い話としては、人民解放軍
はホテルやキャバレーまで経営していると聞きました
し、またお金さえ出せば公安のパトカーが新婚さんや
修学旅行の車の先導を務めてくれ、赤信号でもノンス

トップで突っ走ることが出
来るといいます。まさに何
でもありの中国です。

人民解放軍や政府機関が
その配下に多くの企業を持
ち、いろんなビジネスに手
を染める背景には国の財政
状況の苦しさがあったらし
いのです。軍系の経営者や
公共機関の研究所長、さら
には大学の教授たちは「国
の財政負担を少しでも軽減
するよう指示が出ている」
と語っていました。そのためには、上納金さえ支払え
ば、現職のままサイドビジネスを手がけることは没
問題(メイウエンテイ問題ない)であり、むしろそ
れを奨励しているとさえいわれていました。

しかし、政府機関のサイドビジネスもまさに「武士
の商法」というわけではありませんが、市場経済の荒
波に揉まれて経営が行き詰まって脱落するケースも多
いと聞きました。それにサイドビジネスを奨励するこ
とによりますます拝金主義がはびこり、また汚職も蔓
延する弊害も表面化していたようでした。本来の職務
や責務そっちのけで、より手っ取り早く利益を出せる
安易な事業に走ってしまうのでしょうか。だが、そこは
根っからの商人である中国人のこと、一度味わった
金儲けのうま味は簡単には手放しそうにはありません。

ああ、あれから二十年! 経済成長著しい中国は今や
我が国を追い抜き、世界第二位の経済大国へと大変貌
して米国の脅かす存在となりました。隔世の感を禁じ
得ません。デパートや銀行のサービスも改善されたで
しょうか? 是非また北京を訪れたいものです。

(つづく) (写真は万里の長城)



文学掲示板

平成三十年九月展示作品(文学の広場)

郵便バイクの遠のく音をさびしみぬ
筆まめなる兄逝きてこのかた

柏納見 美恵子

吾が命その時までにはと思ひたり
孫が未来を語れる時に

我孫子 飯高 美和子

霜の朝垣根に連なる山茶花の
花のつぼみに五線譜を思ふ

我孫子 山崎 日出男

屋並みの上に堂々として現われぬ
スーパームーン年の始めに

我孫子 村上 智雅子

大戦のおもかげもなき守札門
ハイビスカスのはな咲きにけり

我孫子 佐々木 侑

病癒え三月(みつき)の禁が解けし夜に
友と飲む酒胃に胸に沁む

我孫子 美崎 大洋

楚人冠俳句 序跋詩歌集より 杉村楚人冠

昭和十年

秋

新涼や髪かき居れば膝遠し

繪の具解く指しめやかに夜の寒き

蟲ないて風なき夜半を丸寝かな

曼珠沙華童子来らず豆腐(とふ)を切る

第131回史跡文学散歩のお知らせ

「西浅草と講道館発祥の地を訪ねる」

嘉納治五郎先生の足跡を訪ねるシリーズ第2回は、浅草を巡ります。浅草といっても今、外国人観光客であふれる浅草寺ではなく静かな西浅草の寺町を案内します。歴史上、江戸末期に活躍した人物ゆかりの寺がここには多くあります。

嘉納先生は十代の頃から勉学のかたわら天神真楊流、起倒流の柔術を学び、二十二歳の時(明治十五年)に東京下谷永昌寺内に私塾講道館を開き門弟に柔術を指導しました。講道館発祥の地となったこの永昌寺も最後に案内します。

是非ご参加ください。

1. 日時9月30日(日) 9時、我孫子駅改札口内集合。

(小雨決行) 15時頃現地解散予定。

2. コース 吾妻橋―駒形堂―久保田万太郎生誕の地―清水寺(長谷川一夫菩提寺)―等光寺(土岐善麿美家、石川啄木歌碑)―源空寺(伊能忠敬、高橋景時、幡随院長兵衛などの墓)―永昌寺(講道館発祥の地) など

(昼食は外食します)

3. 講師・ガイド 越岡禮子氏(当会副会長)

4. 参加費 会員 無料、非会員 500円

5. 申し込み TEL&FAX(七二八四)二〇四七 越岡まで

今後の行事予定

「放談くわん」

日時 8月11日(土) 4時〜6時

会場 けやきプラザ8階第1会議室

講師 伊藤 一男氏(当会副会長)

演題 「嘉納治五郎先生をもっと知ろう! 第2弾」

◎参加費 会員無料 非会員三〇〇円

申込みTEL&FAX(七二八五)〇六七五 佐々木まで

(講演内容については5月1日号「あびこだより8号」を参照ください)

プロジェクト「巨木クラブ」予定

「樹木観察会」

第8回7月20日(金)

牛久自然観察の森

我孫子駅改札 9:40 集合―我孫子 9:50―牛久駅 10:00―コミュニティバス 10:15 小坂団地行―公園正門 10:20―牛久自然観察の森―公園正門バス 13:05―牛久 13:25―牛久駅 13:35―我孫子 14:05 頃(公園内には食事処はないので、各自弁当などを持参のこと)

第9回 9月21日(金)

つくば植物園

我孫子駅改札 9:55 集合―我孫子 9:03―柏東武線 9:15―流山おおたか 19:28―つくば 9:54―つくばセンター 5番バス 10:00―つくば植物園 10:05―植物園見学―天久保二丁目バス 12:40―つくばセンター 13:00―つくば駅 13:11―柏 13:25―我孫子 14:05 頃(植物園内には食事処はないので、各自弁当などを持参のこと)

プロジェクト「短歌の会」予定

7月31日(火) 3時〜第11回短歌の会

けやきプラザ 1階小会議室

編集後記

先日の米朝会談については判断が分かれていたようだが、つい最近まで一触即発の状態だった米朝の関係を考えて、非核化に向け前進したことは確かということが言える。▲今はサッカーのワールドカップの真最中で日本中が盛り上がりつつある。寝不足が続くようだ。現時点の情報で決勝トーナメント出場が決定した。微妙な点もあったが、勝負の綾の結果オーライという言葉が当てはまる。▲サッカーについて言えば歴史の違いも勿論だが、海外と日本の差で大きなものはグラウンドの芝と土との違いだ。手入れにお金がかかり、日本の気候に合わない芝。小中学校の校庭を芝に変えようという機運・動きはあるようだが、遅々として進まない。固い土を好む野球が主流の日本では難しいか。(美崎)

平成29年度(平成29年4月1日～平成30年3月31日)決算書

A 一般会計

(単位:円)

収入の部	予算額	決算額	摘要	支出の部	予算額	決算額	摘要
前期繰越金	184,114	184,114		< 総務費 >			
年会費	178,000	167,000		(1) 会議費	8,000	15,836	
参加費	61,000	44,300		(2) 総会費	25,000	47,011	
意見交換会参加費	131,000	92,000		(3) 通信費	12,000	21,812	
雑収入	1,000	20,306	出前講座	(4) 事務用品費	20,000	15,580	
預金利息	30	0		(5) 市民活動メッセ	11,000	17,633	
				(6) 意見交換会経費	131,000	87,423	
				(7) 雑費	20,000	19,072	
				計	227,000	224,367	
				< 散歩部会費 >			
				(8) 案内費	25,000	19,000	
				(9) 資料費	4,000	530	
				計	29,000	19,530	
				< 手賀沼部会費 >			
				(10) 美手連会費	5,000	5,000	
				(11) 雑費	1,000	5,000	
				計	6,000	10,000	
				< 研修部会費 >			
				(12) 会場費	7,000	6,380	
				(13) 資料費	15,000	16,000	
				(14) 雑費	20,000	14,305	
				計	42,000	36,685	
				< 広報部会費 >			
				(15) 消耗品費	26,000	12,660	
				(16) 発送費	59,000	59,182	
				計	85,000	71,842	
				< 予備費 >			
				(17) 四十周年事業基金繰り入れ	50,000	50,000	
				支出計	439,000	412,424	
				(18) 次期繰越金	116,144	95,296	
合計	555,144	507,720		合計	555,144	507,720	

B 特別会計

1 四十周年事業基金

(単位:円)

四十周年事業積立金	350,000	定額預金	350,000
-----------	---------	------	---------

※ 定額預金のため、利息は解約時に表示される。

2 我孫子脇本陣基金会計

脇本陣基金会計繰越金	264,279	銀行預金	264,302
預金利息	23		
合計	264,302	合計	264,302

貸借対照表

(単位:円)

借方	金額	貸方	金額
現金	16,525	一般会計繰越金	95,296
千葉銀行普通預金	10,079	四十周年事業積立金	350,000
千葉銀行定期預金	264,302	脇本陣基金会計繰越金	264,302
郵便局普通預金	68,692		
郵便局定額預金	350,000		
合計	709,598	合計	709,598

以上の通り、適正であることを認めます。

平成30年4月25日

会計監査 牧田 宏恭



同 飯高 美和子



平成30年度(平成30年4月1日～平成31年3月31日)予算(案)

A 一般会計

(単位:円)

収入の部	前期決算額	予算額	摘要	支出の部	前期決算額	予算額	摘要
繰越金	184,114	95,296		< 総務費 >			
年会費	167,000	167,000		(1) 会議費	15,836	10,000	
参加費	44,300	45,000		(2) 総会費	47,011	40,000	
意見交換会参加費	92,000	131,000	2回分	(3) 通信費	21,812	22,000	
雑収入	20,306	20,000	出前講座	(4) 事務用品	15,580	15,500	
預金金利				(5) 市民活動メッセ	17,633	15,000	
				(6) 意見交換会経費	87,423	131,000	
				(7) 雑費	19,072	15,000	
				計	224,367	248,500	
				< 散歩部会 >			
				(8) 案内費	19,000	20,000	
				(9) 資料費	530	2,000	
				計	19,530	22,000	
				< 手賀沼部会 >			
				(10) 美手連会費	5,000	5,000	
				(11) 雑費	5,000	5,000	
				計	10,000	10,000	
				< 研修部会費 >			
				(12) 会場費	6,380	6,500	
				(13) 資料費	16,000	15,000	
				(14) 雑費	14,305	15,000	
				計	36,685	36,500	
				< 広報部会費 >			
				(15) 消耗品費	12,660	13,000	
				(16) 発送費	59,182	59,000	
				計	71,842	72,000	
				< 繰越金 >			
				(17) 四十周年事業基金繰り入れ	50,000	0	
				(18) 次期繰越金	95,296	69,296	
				計	145,296	69,296	
合計	507,720	458,296		合計	507,720	458,296	

B 特別会計

1 四十周年事業基金

四十周年事業積立金	350,000	定期預金	350,000
合計	350,000	合計	350,000

2 我孫子脇本陣を引継ぐ文化事業基金

脇本陣を引継ぐ文化事業積立金	264,302	定期預金	264,327
預金利息	25		
合計	264,327	合計	264,327